

症例検討会

症例2

平成26年度細胞診従事者講習会

九州大学病院別府病院
宇藤満昭



症例：60歳代 男性

現病歴：他院にて、関節リウマチのためMTX(メトレキサート)を投与中であった。CT検査で左頸部および腹部大動脈周囲のリンパ節腫脹を指摘され当院に紹介となった。

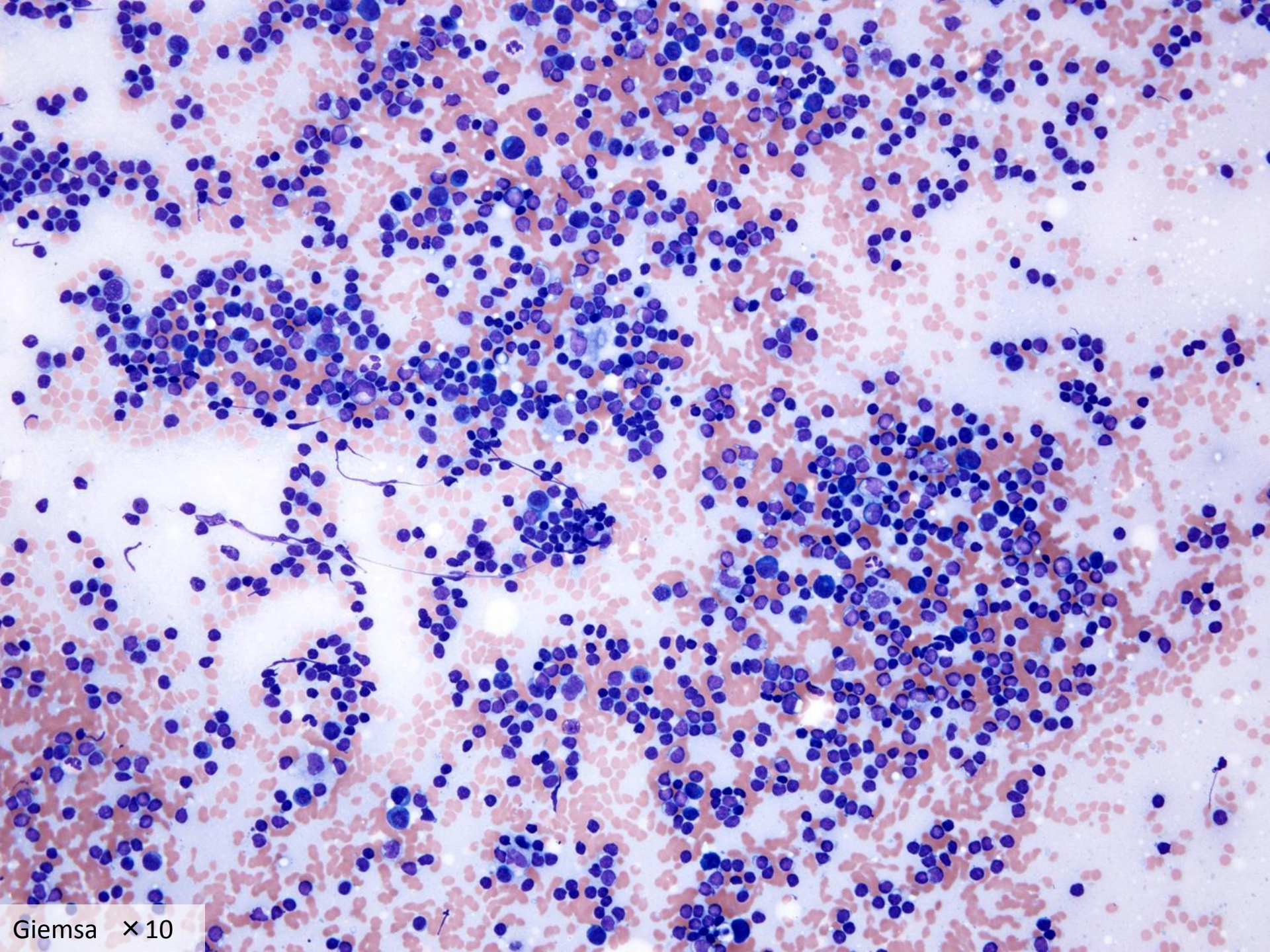
既往歴：C型肝炎

検査値：フェリチン・・・873ng/mL

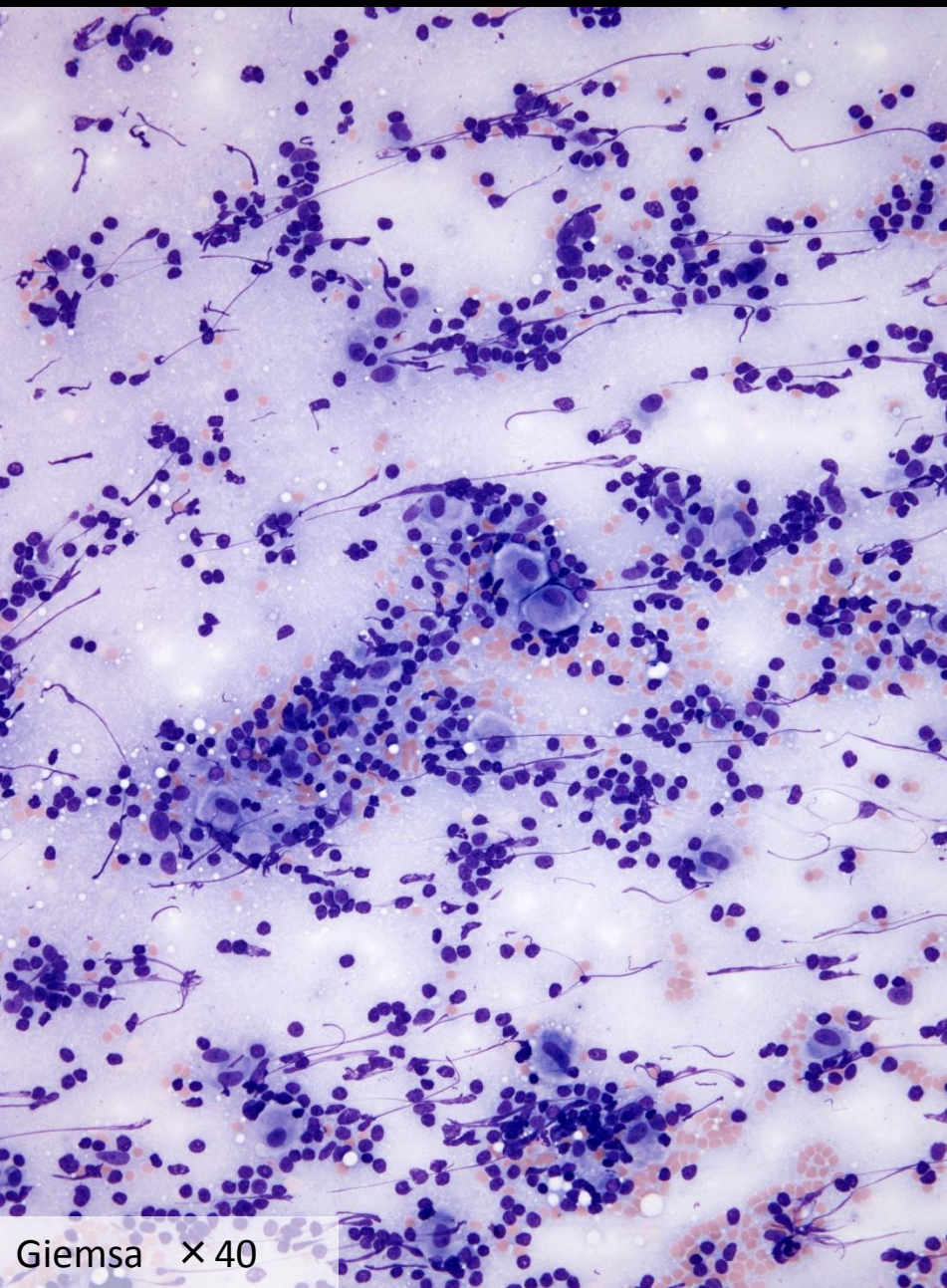
sIL-2R・・・1797U/mL

その他、検査値に特記所見なし。

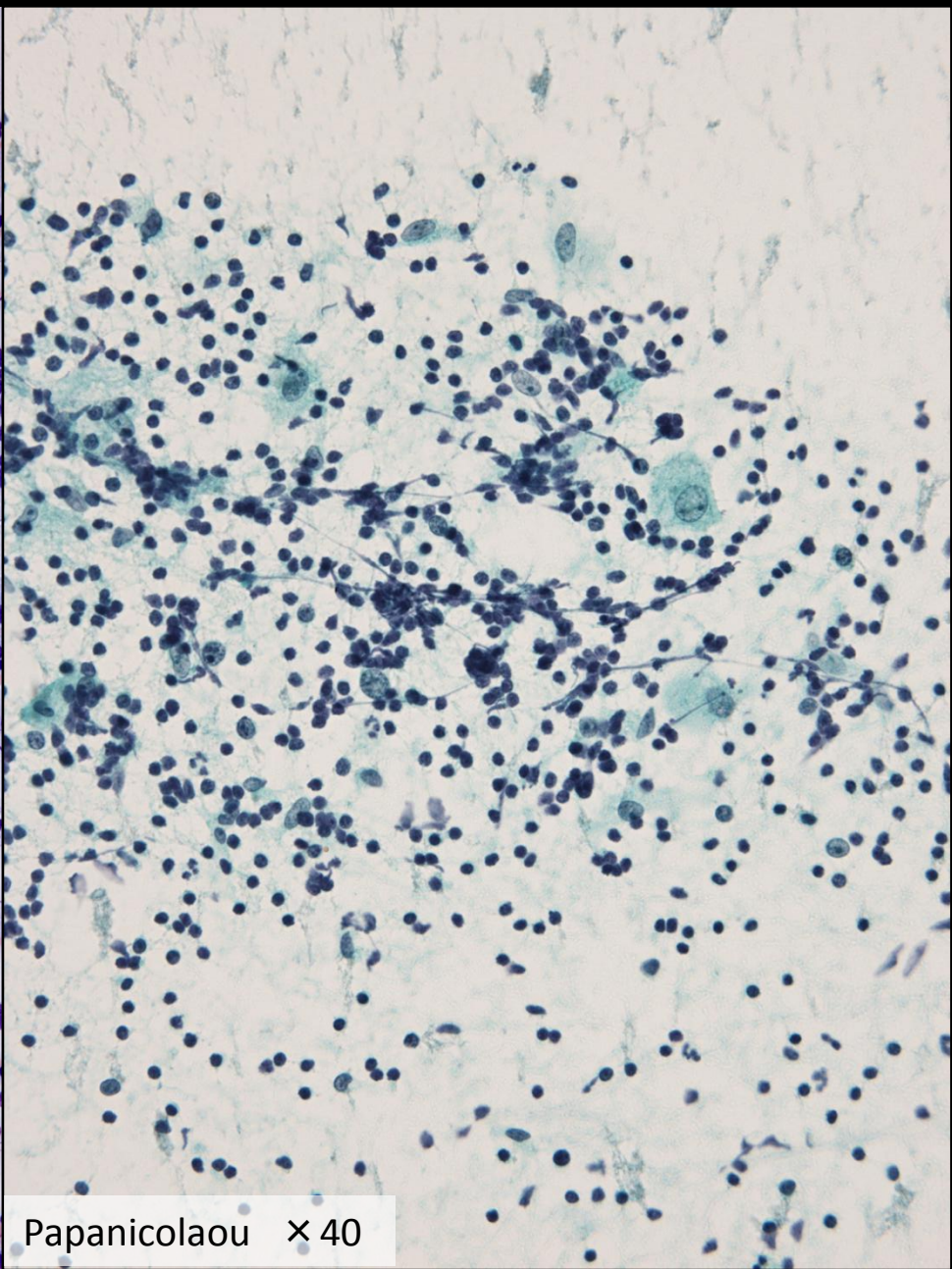
材料：左頸部リンパ節 捺印標本



Giemsa × 10



Giemsa × 40



Papanicolaou × 40

我々の細胞診所見

判定： Negative

正常なリンパ球を主体に多数の組織球、および形質細胞、好酸球を認める。

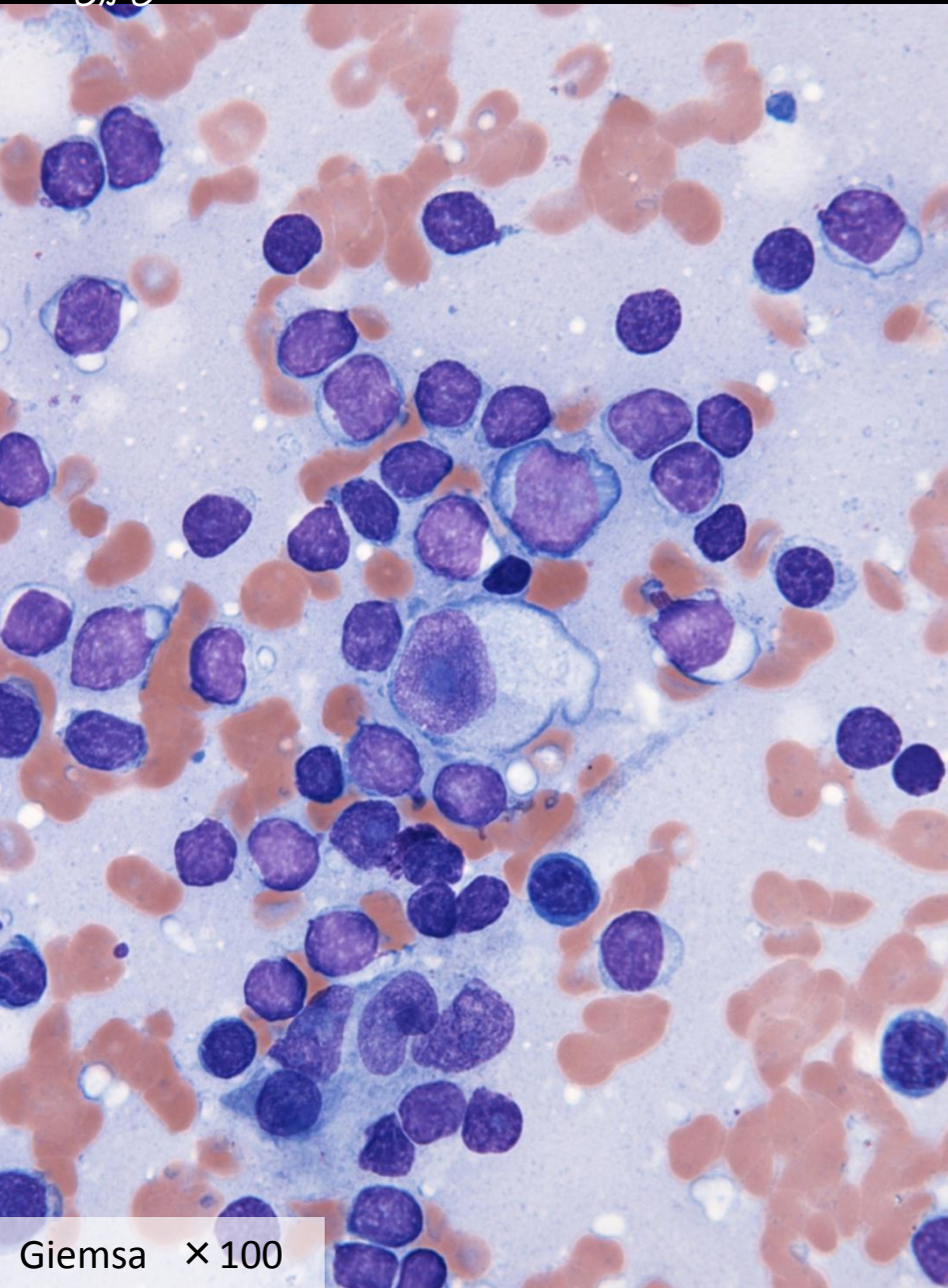


単一な増殖を示す細胞は認めない。

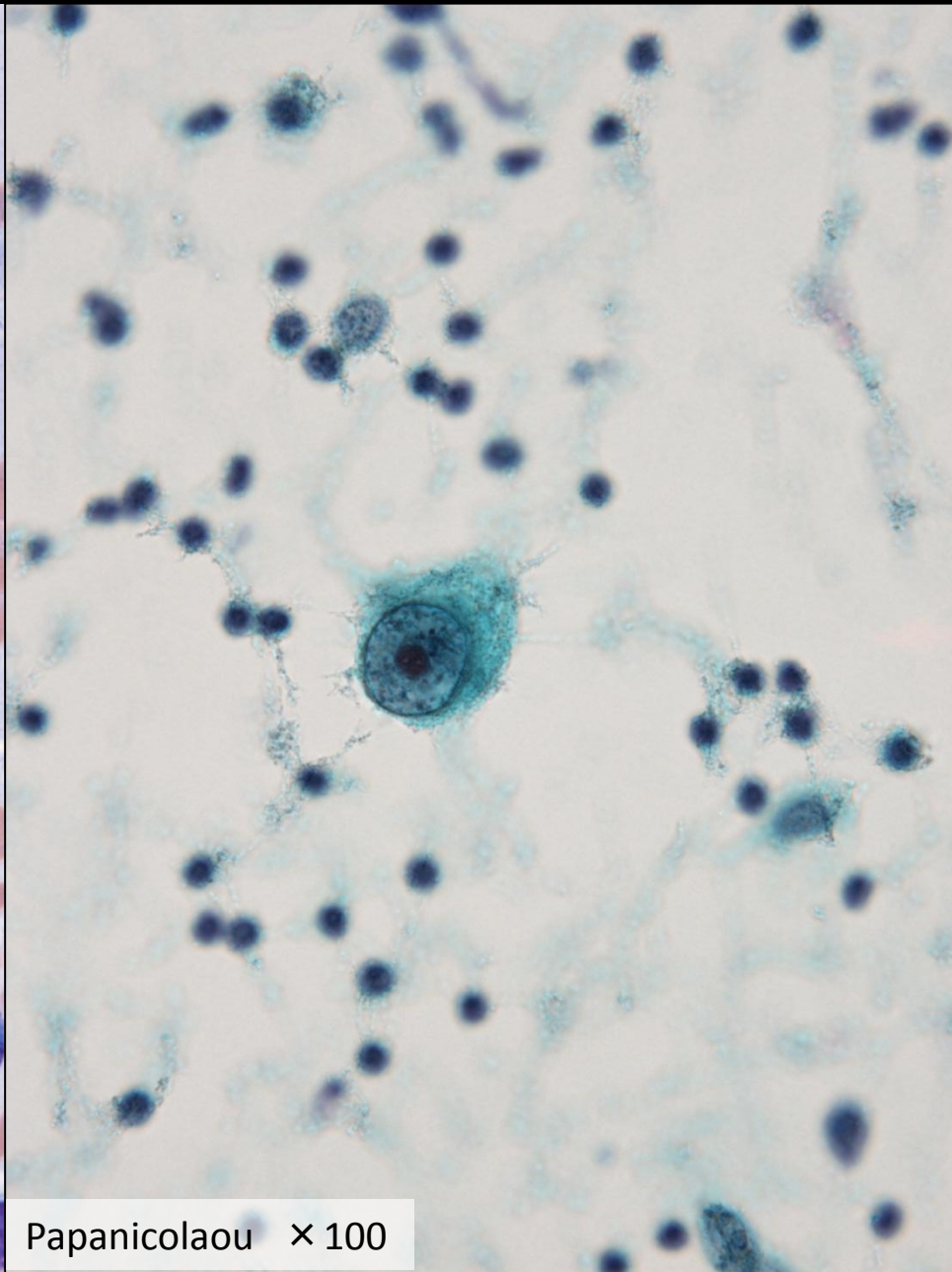


反応性のリンパ節を推定する。

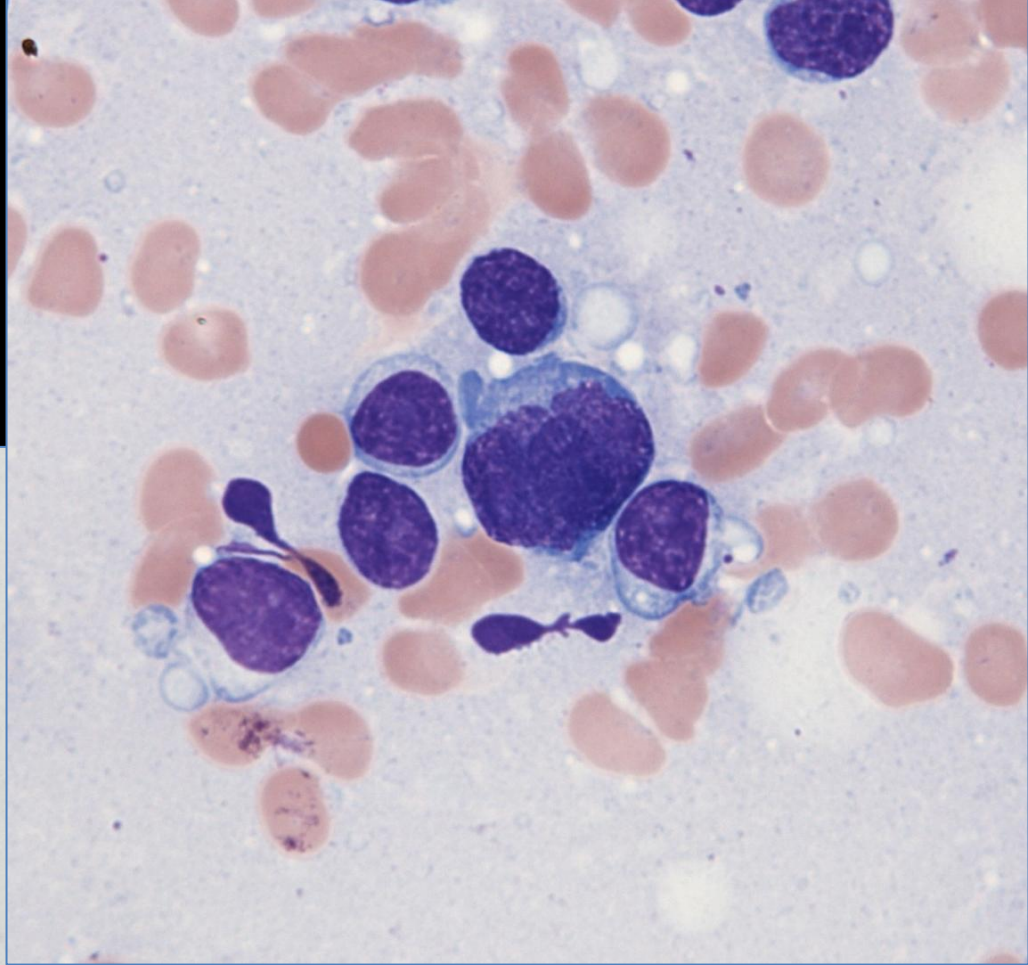
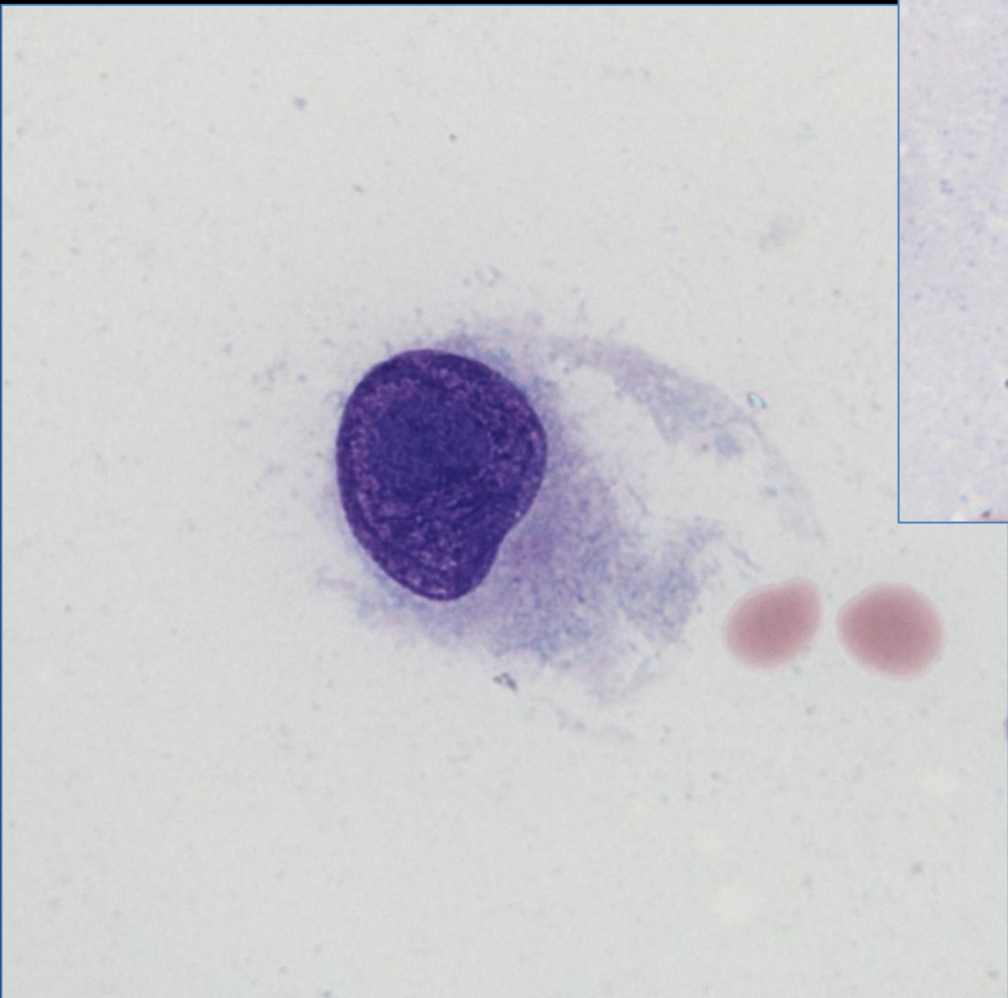
しかし……

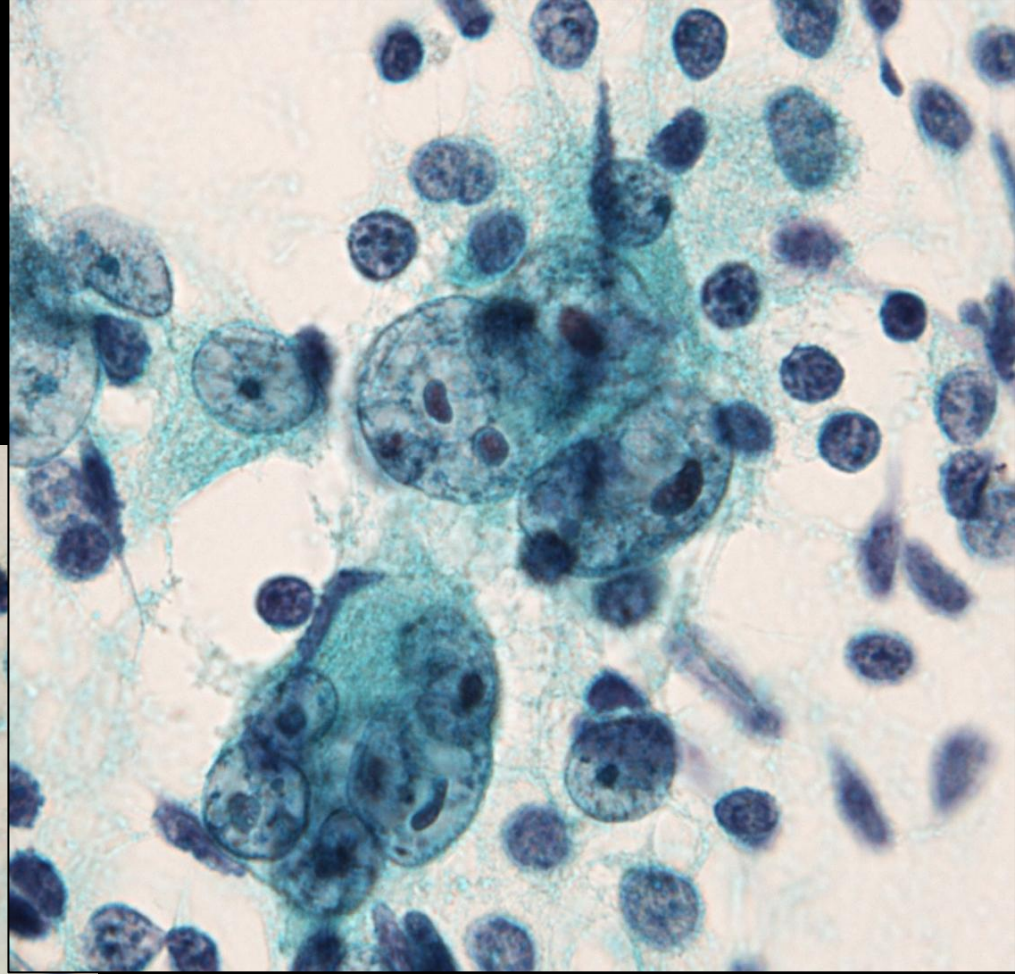
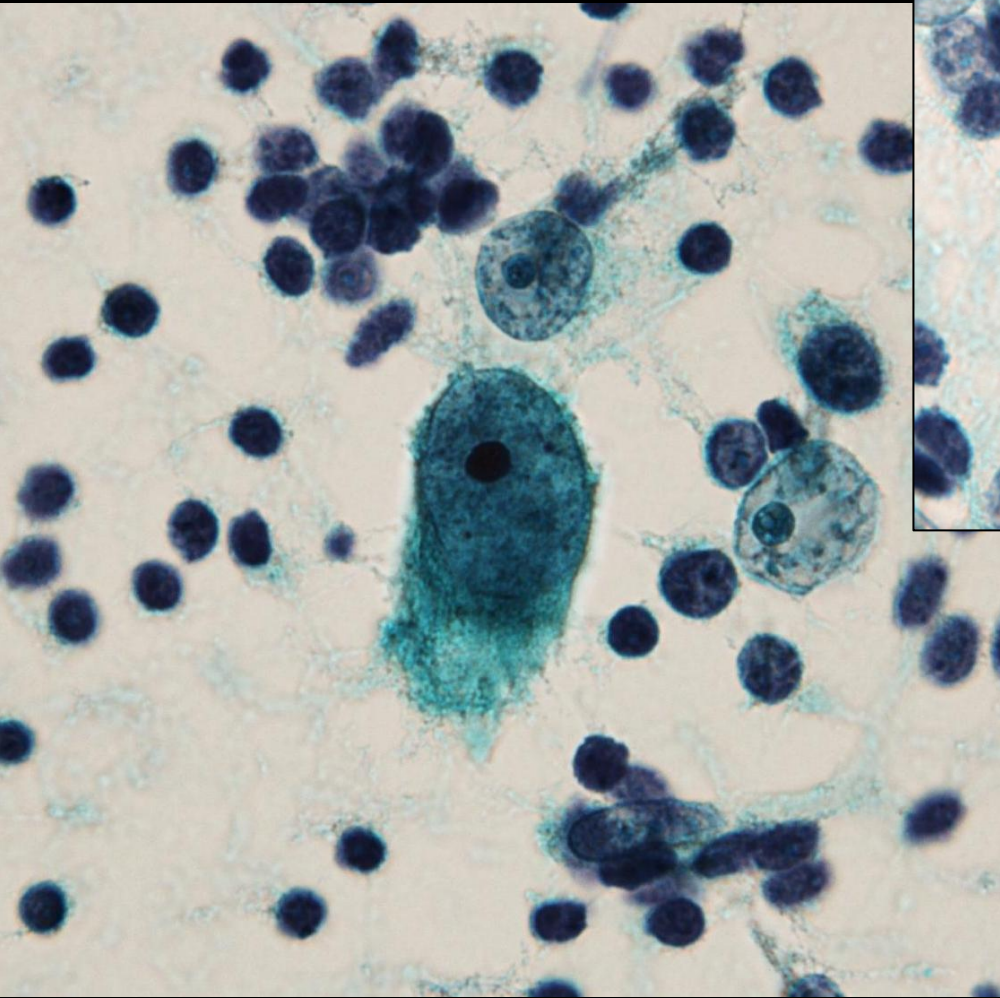


Giemsa × 100



Papanicolaou × 100





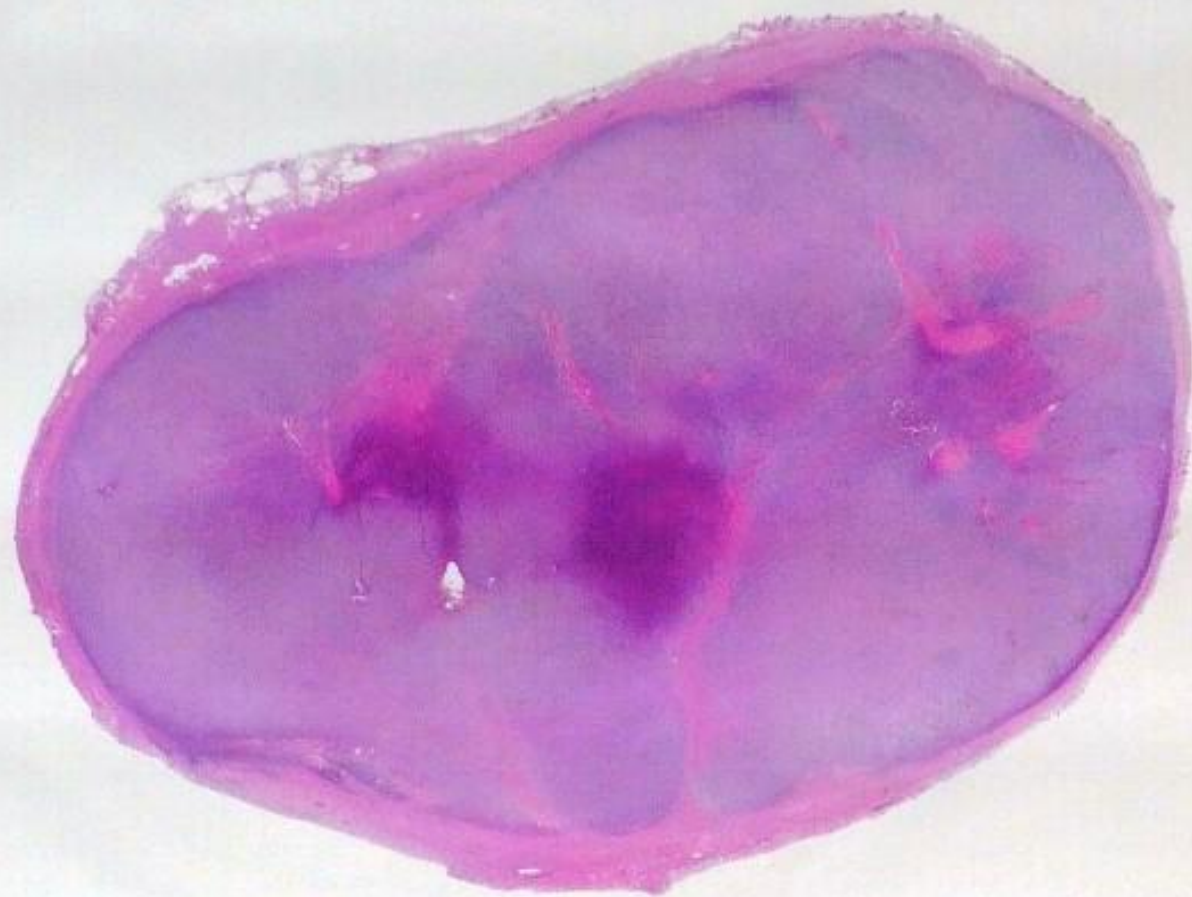


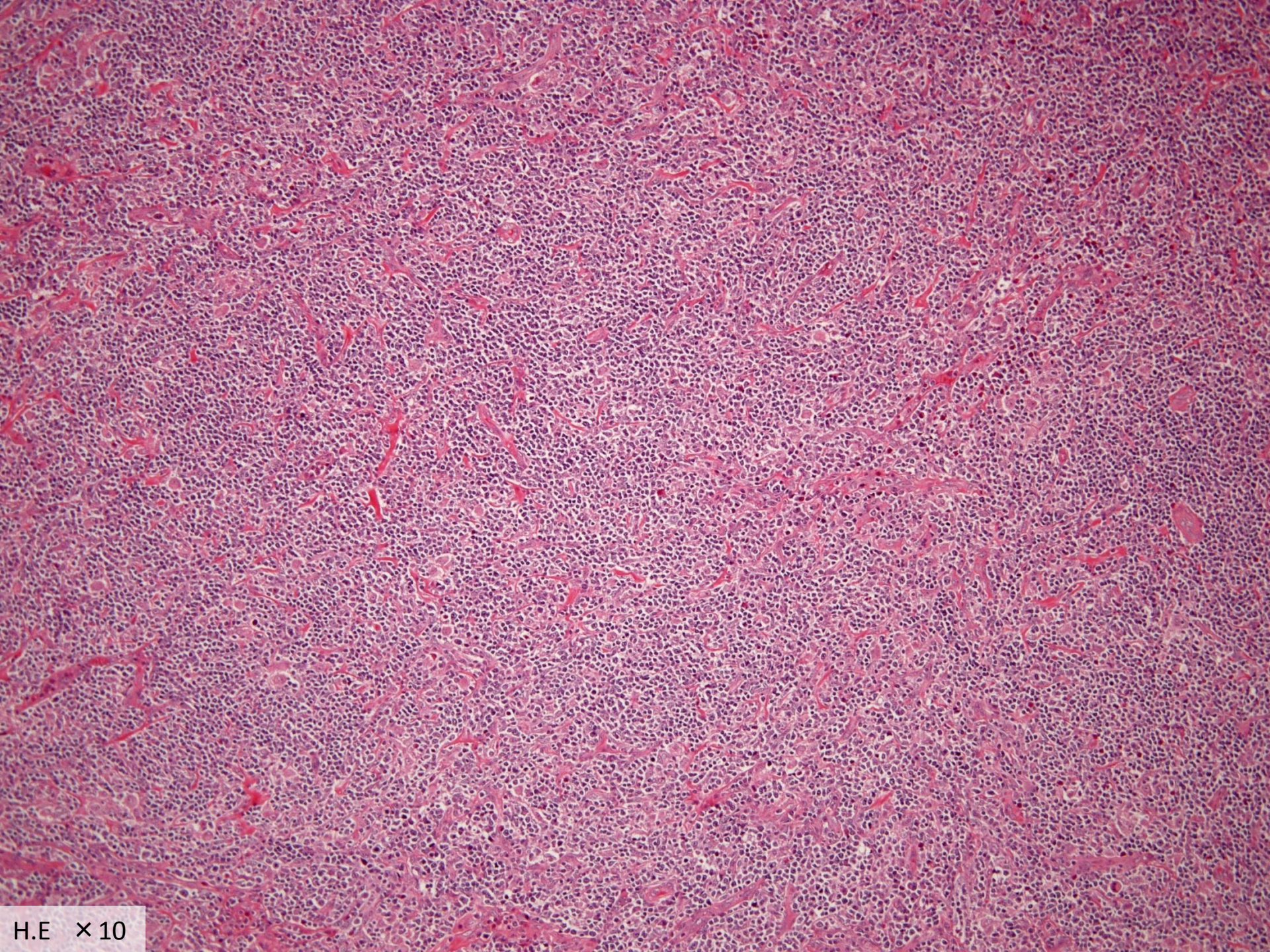
外来者 駐車場 受診される方 お見舞いの方	職員・業者 受診される方 お見舞いの方
P ←	← P

禁止

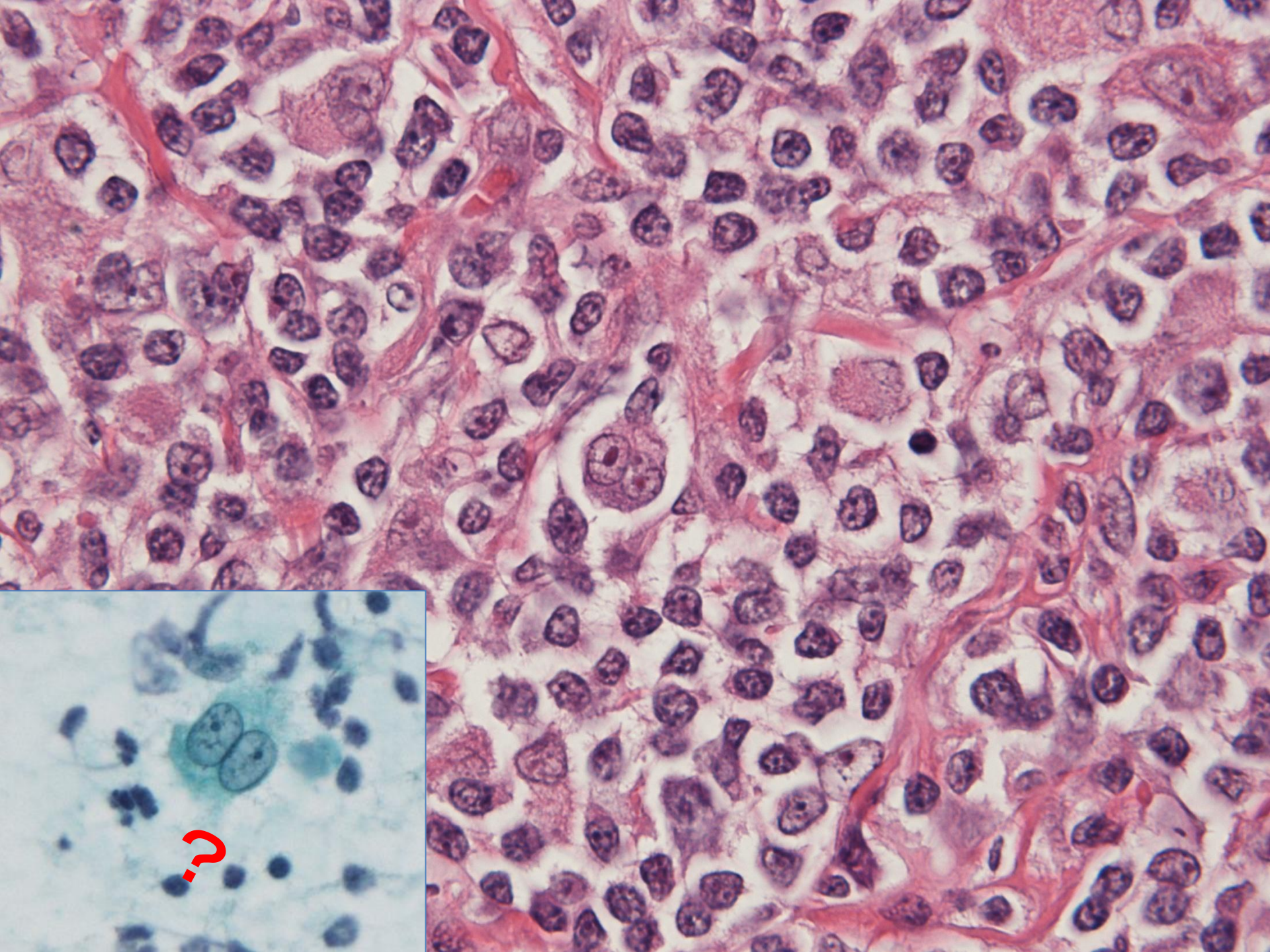
左頸部リンパ節

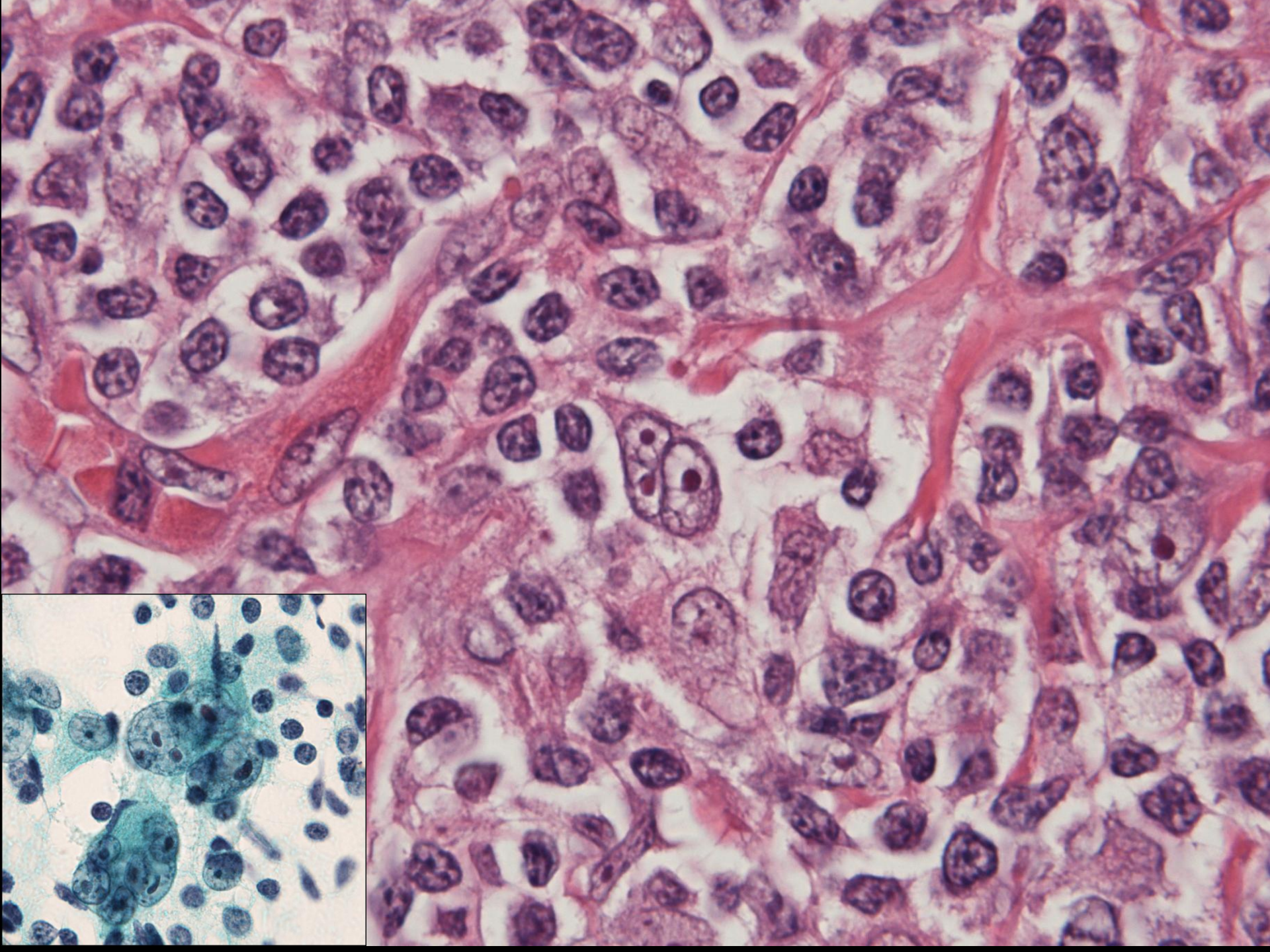
20mm × 12mm

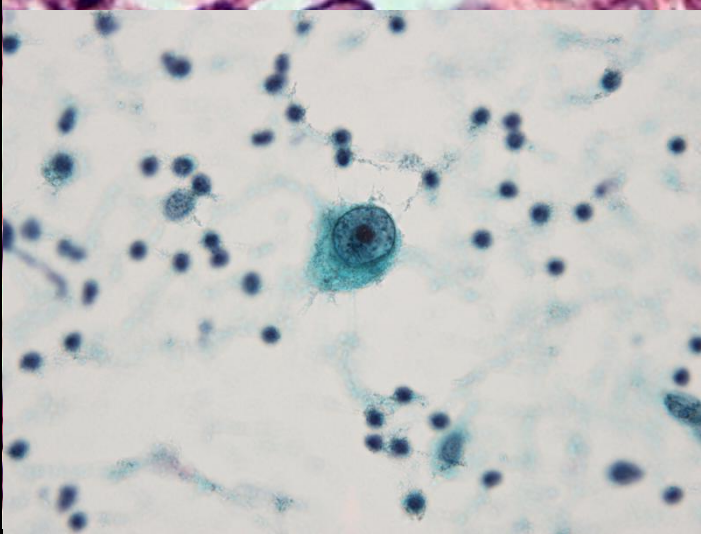
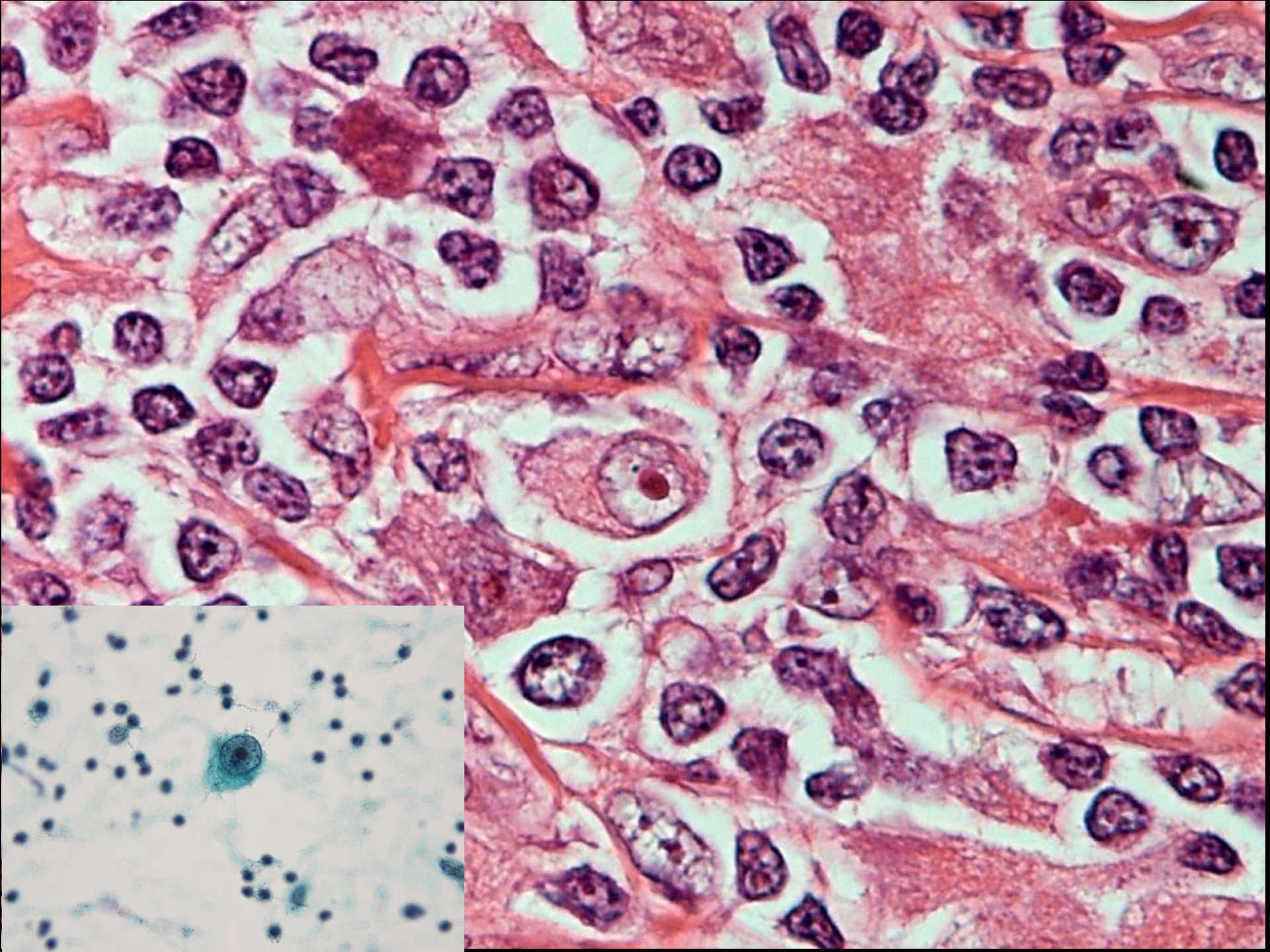




H.E × 10







病理診断

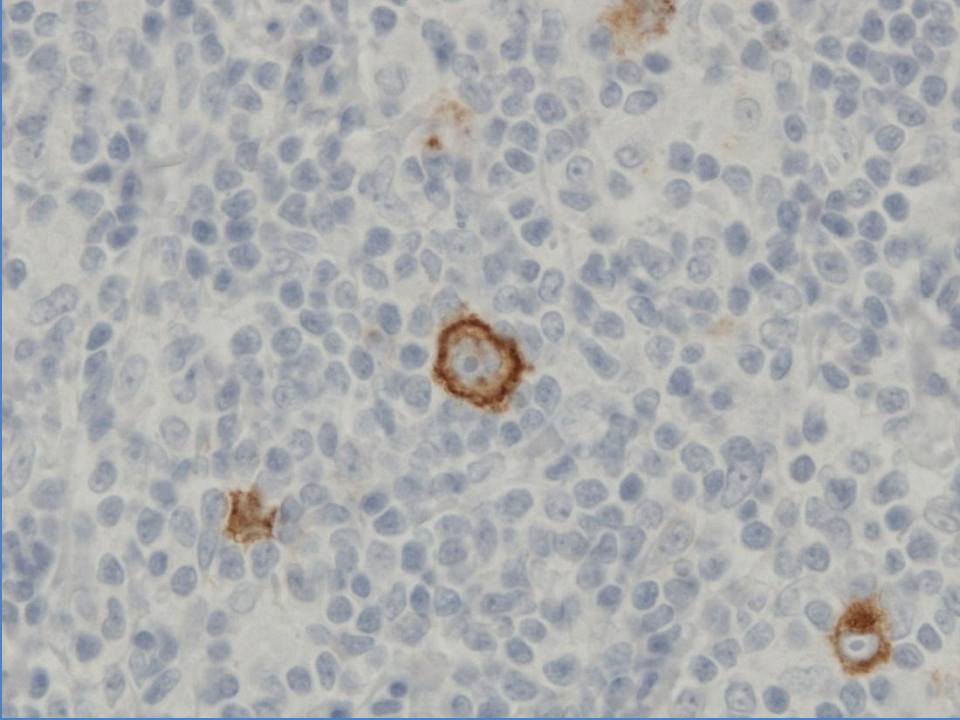
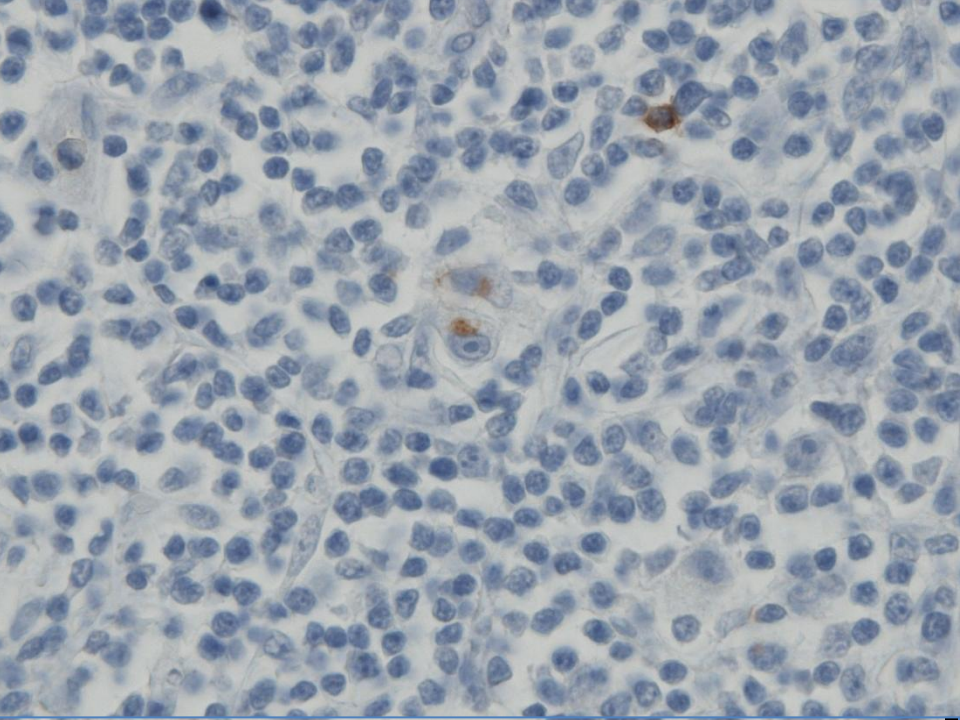
Lymph nodes : Malignant lymphoma

Section shows scattered large-sized atypical lymphoid cells with enlarged nuclei and prominent nucleoli, resembling Hodgkin cells.

Result of immunohistochemical stain follows :

LCA(+),CD20(-),CD79a(-),CD3(-),CD30(+),CD15(+/-),EBV-ISH(+)

The feature is compatible with **Hodgkin lymphoma**.



CD15

CD30

CD15

CD68

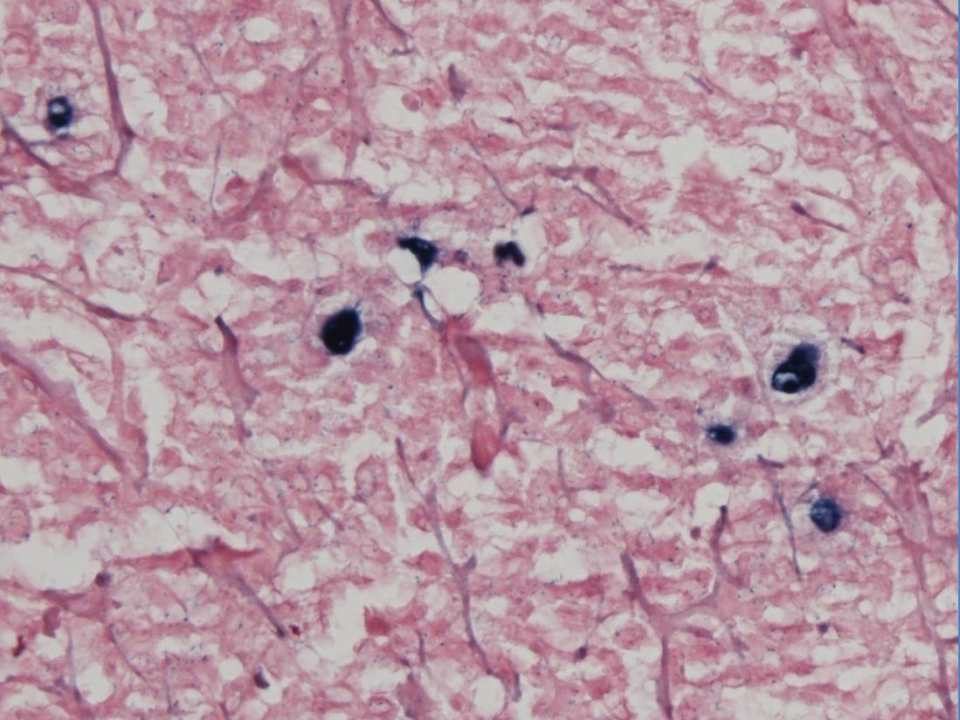
CD15

CD68

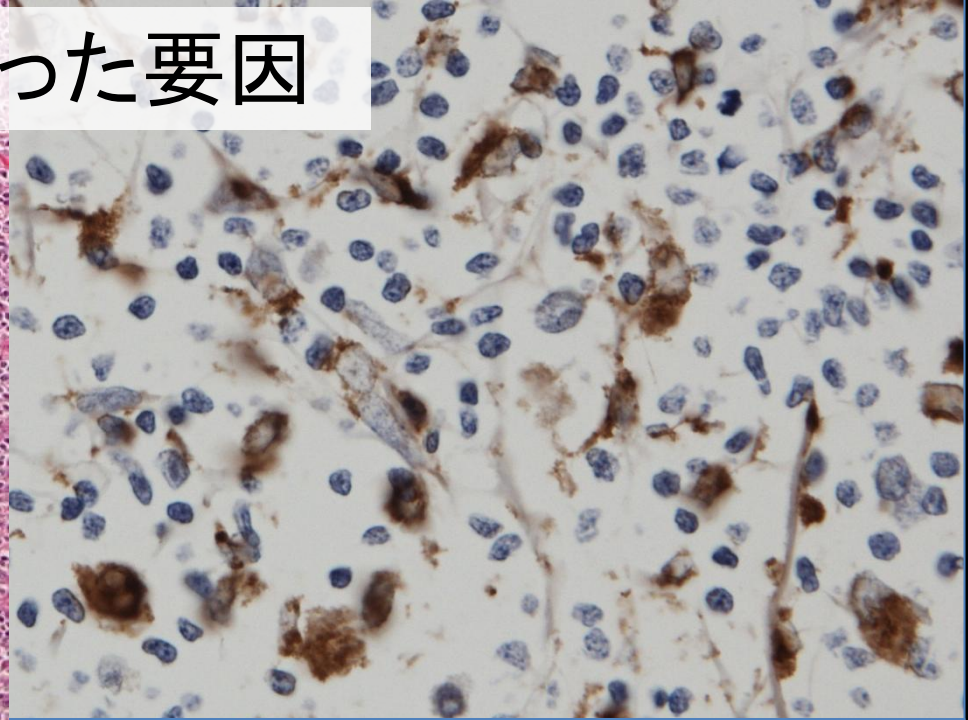
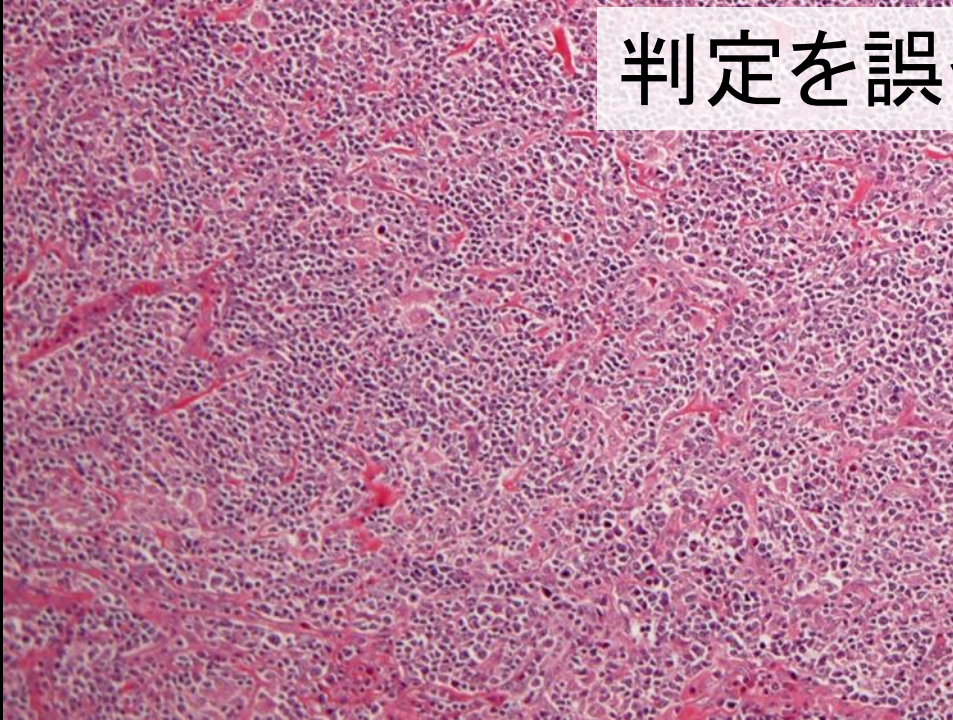
EBV-ISH

EBV-ISH

EBV-ISH



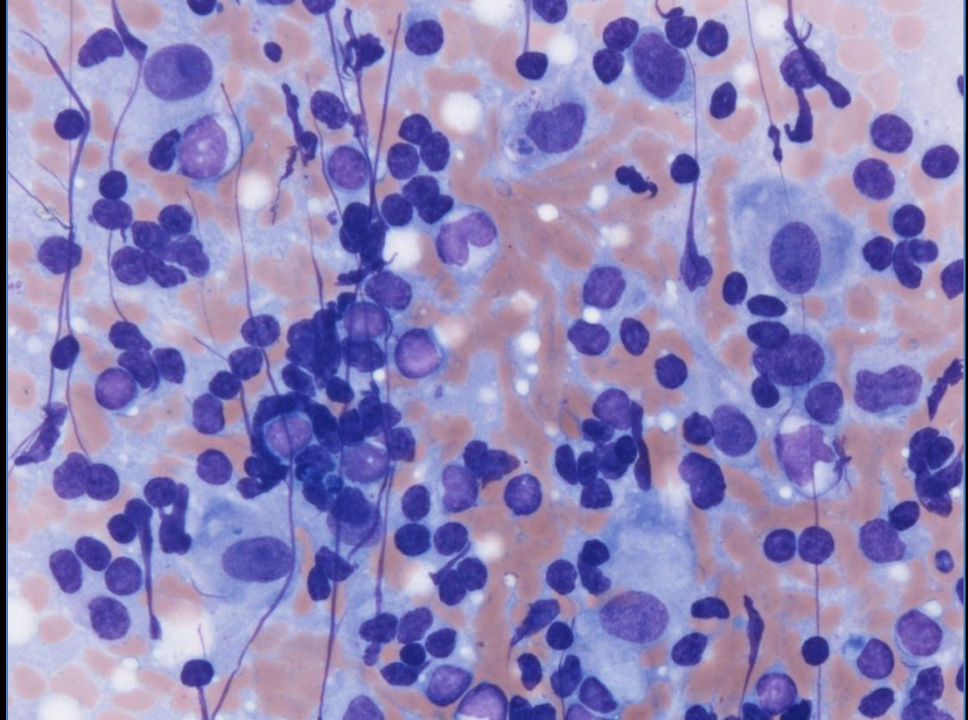
判定を誤った要因



H・E

組織：CD68

Giemsa



Hodgkin lymphoma

- ホジキン病は1832年にThomas Hodgkinにより報告された。
- 単核の細胞をHodgkin細胞、2核以上の多核の細胞をReed-Sternberg細胞と呼び、現在これらをまとめてHodgkin/Reed-Sternberg細胞(H-RS細胞)と称されている。
- 免疫化学的検査、分子遺伝子学的検査の発展により、成熟B細胞(特に胚中心細胞分化段階のB細胞)由来の腫瘍であることが確認され、現在では「ホジキンリンパ腫」という名称が使用されている。

Hodgkin lymphoma

	Hodgkin lymphoma
頻度	5-10%
好発年齢	二峰性 (若年層と中高年層)
好発部位	頸部や縦隔リンパ節
リンパ節以外の病変	まれ
治療	化学療法、放射線療法 分子標的薬(ブレンツキシマブ・ベドチン)

MTXとEBウイルスの関連

- **MTX(メトレキサート)は抗リウマチ薬。**
 - ・その他、ある種の悪性腫瘍にも使用される。
- **MTX使用患者にリンパ増殖性疾患が合併する頻度が高い。**
 - ・MTX関連リンパ増殖性疾患と言われている。(MTX-LPD)
- **MTX関連リンパ腫のなかでもホジキンリンパ腫が多い。**
 - ・MTX関連の全悪性リンパ腫のうち20%
- **多くの症例において、H-RS細胞からEBV-DNAが検出される。**
 - ・約4-5割の症例で陽性が確認される
- **MTX関連リンパ腫の6割は、薬剤の中止のみで寛解に至る。**

まとめ

- 組織球の多い標本は、安易に流さずくまなく観察する。
- やや大型の細胞が出現した場合は、強拡大で確認する。
- 良い判定をするには、良い標本を作製するよう心掛ける。
- 臨床情報は把握して、標本を観察する。

以上です。ありがとうございました。

